

「2024年度バルセロナ大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学部2年 重平 晃佑

- ① この留学を通して感じた最も大きな変化は外国語でのコミュニケーションの重要性や楽しさです。今まで外国語で意思疎通をする環境に身を置いたことがなかったため、外国語で何かを伝えようとする行為、一生懸命相手の言葉を聞く行為はとても新鮮でした。特に、講義での一対一の会話や、ホテルで夕食を作る時に一緒に泊まってる方や従業員の方と話すのは思っていることを伝えるのがとても難しいと同時に、相手が僕との会話に真剣に向き合ってくれるためリラックスした気分で楽しく話せたためとても印象に残っています。その経験から外国語の方に話しかけることのためらいなどが以前よりも感じなくなるとともに、自分の考えを明確に英語で伝えられたら楽しいだろうなという現在の外国語のモチベーションの向上にも繋がっていると思います。将来外国語を使う職業に就くかはわかりませんが、世界中のより多くの人とコミュニケーションをとれた方が情報を多く得られ、自分の視野も広がるので大切だなと思います。

また、今回は2週間の短期留学だったので外国語の技術の向上はありましたが少ないものだと思います。日本でスペイン語や英語を学び、語学の技術を高めてから、それを実践する形として英語圏に長期留学をするという選択肢も考えてみたいなと考えています。

- ② 私は建築学を学んでいて、バルセロナの経験の中でも特に建築や都市がどのようなあり方、営われ方をあいているかという視点から街を眺めることが多かったです。バルセロナの新市街はブロック制で、道幅も広く日本よりも歩道で何かをするという文化が強いように感じました。例えばバルやレストランでは店内よりも外の席の方が人気があったし、道に布を広げて何かを売っている人がいるという光景がよくみられました。それがバルセロナでは街を汚くするのではなく、公共スペースで知らない人と交流するという文化や、街が賑やかというバルセロナ独自の景観を創出している魅力的だと感じました。しかしながら、どこも同じ単位の同じ長さのブロックで構成された都市であるため、同じ光景が連続して何がどこにあるかが覚えにくい都市だなとも感じました。もちろん、道案内をする分には説明しやすいですが、日本みたいな複雑な都市と比べると土地勘が得られるのに時間がかかるのかなと思います。

また、バルセロナはガウディ建築で有名でどの建築もステンドグラスや装飾で空間が鮮やかだなと感じました。サグラダファミリアは従来の教会の構成様式を取り入れながらも、ものすごく天井が高くてとても壮観であったり、ファサードの彫刻の装飾がひとつひとつ丁寧に彫られていてそれにつけられた人々の努力や時間の壮大さを感じました。

- ③ プログラムでは多くの語学に関する知識と、ヨーロッパの経済や文化について学びました。その中でも経済学の講義に参加した時に現地の学生と1体1で一時間ほど話した時間は相手の文化を知り、自分の文化をしゃべる貴重な機会であり、互いの文化への理解が深まるとともに、英語でのコミュニケーションの楽しさを知るきっかけになりました。私の相手の方はスロバキアの方だったのですが、今までスロバキアという国は名前くらいしか知識がなかったので食文化や国民性、知ってほしいことなどを英語があまりできない私に伝えかたを変えたりしながら伝えてくれてとても嬉しかったです。同時に日本のことを話すのですが、いざ説明するとなると解像度高く説明できてびっくりしました。自国の文化への認識を高めることも外国の人とのコミュニケーションで大切だと痛感しました。

- ④ 将来の進路はインターナショナルに活動する仕事かどうかはわかりませんが、少なくとも英語はもっと喋れるようになっていざとなった時にコミュニケーションできるくらいの語学力は身につけるべきだと感じました。おそらくどんな仕事でも海外の方と関わる機会はあるので時間がある大学生のうちに外国語の技術を向上させようと思います。